

## HTLV-I抗原の検出に関する研究

佐藤 洋一, 川名 尚

要約：我々は、昭和62年度より東大産婦人科及びその関係病院の協力を得て、妊娠中のHTLV-I抗体のスクリーニング検査にて陽性と判定された妊婦の出産時の母体血及び臍帯血中の（リンパ球を分離・培養を施行し、）HTLV-I抗原の検索を行っている。

見出し語：HTLV-I抗体価、臍帯血中HTLV-I抗原

目的：抗原の検出とHTLV-I抗体価の関係を明かにして、垂直感染のハイリスクグループの抽出を目的とした。

対象：HTLV-I抗体陽性を確認した母体血、臍帯血、既出産児等、PA法及びFA法の抗体価の測定後の検体、母体血29例、臍帯血28例、既出産児2例、その他14例とした。

研究方法：

### 1、HTLV-I抗体のチェック

HTLV-I抗体は凝集(PA)法と、サンドウィッチ方式カップ型EIA法との両方の全例チェックとWestern Blot法、吸収EIA法等の確認試験を再施行し、抗体に関する十分な確

認を行った。

尚、PA法及びFA法の抗体価の測定も施行した。

### 2、HTLV-I抗原検索

抗原検索は、Ficoll-Conrey比重分離法にてリンパ球を分離し、RPMI 1640+インターロキン2の培養液中で培養継続し、IF法にて抗原検索を2ヶ月間、行った。

結果：

1、PA法により陽性とされた血清のうち、FA法とEIA法により陽性と確認できたものは、母体血29例中24例、臍帯血28例中24例、既出産児2例中0例、その他14例中5例であった。

2、ウイルス抗原は、母体血11例、臍帯血1

\* 東京大学医学部附属病院分院 産婦人科

例、その他14例中5例、計17例で検出した。全てF A抗体陽性例からで、抗体価160倍以上では5例全例、10~80倍では48例中12例で、F A抗体陰性例では1例も検出できなかった。また、P A抗体価では、256倍以上で48例中17例検出できたが、128倍以下では、5例全て検出できなかった。

3、HTLV-I抗体陽性の母体の臍帯血28例中、1例に抗原を検出した。

考察：

1、低いP A抗体価の場合、偽陽性の例があり、F A法等の確認試験の併用が必要である。

2、F A抗体価と抗原検出率とで、ある程度相関が認められた。

3、1例で臍帯血リンパ球にウイルス抗原を検出したことより、頻度は少ないが、胎内感染も存在すると考えられる。

## 文献

1) 一條元彦ら：ヒトT細胞白血病ウイルスの母児感染とその防止策 産婦人科治療57:658,

1988.

2) 川名尚、佐藤洋一、小泉佳男：風疹、HB、ATL、梅毒 産婦人科の実際 37:1688,1988.

3) 佐藤洋一、川名尚：ATLA抗体測定上の問題点 東京地方部会雑誌 37:269,1988.

4) 上平 憲ら：抗ATLA抗体の測定法の問題点とその応用. 日輸血誌, 33:7, 1987.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:我々は、昭和 62 年度より東大産婦人科及びその関係病院の協力を得て、妊娠中の HTLV-1 抗体のスクリーニング検査にて陽性と判定された妊婦の出産時の母体血及び臍帯血中の(リンパ球を分離・培養を施行し、)HTLV-1 抗原の検索を行っている。